

ではないでしょうか。

このような研究概念の拡大が、「一般教育研究」の存在証明になりそうです。しかし、それは現代社会においてどのような根拠をもちうるものでしょうか。もっとはっきりさせておく必要があります。そして、「一般教育研究」と従来の専門研究との関係から、大学における学問・教養・職業の関連性、あるいは研究と教育の一体性といった古典的な課題をあらためて追究してみようの必要もありそうです。

6 一般教育部はどのように研究活動を進めればよいのか、といった具体的な問題について解答をみいだすことが、一般教育部にとっての当面の課題です。しかし、その

一般教育と常識

一般教育を受けもつに当り、たんに制度問題としてお茶をにごすのでなく、名実ともにそなわったものにしようとする取り組みとなると、担当者はすぐれた常識の持主であるか、少くともそうなるうとする積極的な姿勢を持つことを要求されるだろう。この場合、常識というのは、低質の方へ平均化された科学以前の安っぽい知識のことでないのはもちろんである。ではどんなものか。まず、お互いの専門を支えている共通の良識

ような現実問題といえども、いや現実問題なるが故に、主客分化して自他が共通に合理的に理解しうる結論に到達することは容易ではありません。やはり、さきへのべたような基本的な問題にさかのぼっての討議を経て、いわば明晰判明な判断からあらためて理論の体系をきづきあげるという過程をたどるのでもなければならぬでしょう。そのような過程こそ、改革期の学問にもとめられているものです。そして、「一般教育研究」がもっているものです。それを、まずは、「一般教育部の研究活動について」の一般教育研究室を中心とする研究活動に期待することとします。ご協力をお願いします。

山 内 重 幸

とでもいえようか。しかしそれだけでは足らず、同時に国民大衆の生活や思想や健全な判断力につながり、これを躍動させ合理的な思考に高めるちからを持つものでなければならぬ。仲間うちだけにしか通じないような知識は常識とはいえないからだ▼ところで、大衆とは？ ひところ、「大衆社会」論とか、その裏がえしの「知識社会」論、「未来社会」論、「未来学」などというへんな「学問」が、疫病のように流行したことがあ

た。そして政策的なイデオロギーとしてならともかく、学問としては数年ならずしてもの見事に破算してしまった。大ぎょうに売り出しながらこうも早々とくずれた惨めな例は学問史のうえでも数すくないであろう。破算のおもな根拠はどこにあったのか。かれらが現象のはしばしをかき集めてつくった「大衆」の虚像が、現に見るその実像と余りにもかけ離れすぎているからだ、と見るのはひが眼か▼40年も前に戸坂潤は、大衆とはすぐれて歴史的・政治的な概念であり、圧倒性（強力性）と平均性とを特徴とする多衆の組織化による止揚において成立し、それが持つ高質性の中身は歴史の起動者としての使命にある、との趣旨のことをねばり強く論じた。こうした高度の「常識」を常識としていたがゆえに、戸坂は稀有のアンシクロペディストたることができたのだが、またこの常識のゆえに非業の獄死を遂げなければならなかったのだ。戸坂は死んだが、かれの常識が刻印した大衆像はいまや国民大衆の実像として、すなわち歴史的・政治的・倫理的な国民大集団

としてくっきりとその遅しい相貌を現わしつつある。大衆をそうした歴史的・政治的概念の基体ととらえるのに、われわれはもはや戸坂の炯眼と分析力を必要としない。現前の姿のうちにそれを看取することができるからだ。そのセンスこそ現代知識人の共通の健全な常識（=der gesunde Menschenverstand）というべきだろう。これが欠落したとき一般教育はどうなるか。片々たる知識の切り売りか、それともお役所的指導のおしつけか▼ふたたびいう、一般教育は専門の科学的な通識と大衆の高質の常識とを媒介組織化する任務をもつ、と。ここでいう組織化とは担当者の内外へ展開する理論的教育的な運動であることはいうまでもない。一般教育が運動であるということの意味はむろん複雑で多面的だが、この組織化の運動こそ、その中核的な位置を占めるのではないか、そしてそれは上述の常識を必要とするのではないか、と思うのである。——談話室の饗宴の一素材として提言するしだいである。

子供たちの遊びを見つ

桂 孝 二

この四月に、私の住んでいる花園宿舍の70坪ぐらいの空地に、幼い子供用の遊び道具が設置された。ブランコ・すべり台・金

棒・ジャングル何やら、それから砂場である。近所の子供も遊びに来て大へんの人気である。